

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	キッズサポートクラブあしたばプラス		放課後等デイサービス		公表日	2026年 3月 13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2		学習室と遊ぶ部屋を分ける（別にする）必要があると感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		日によって短い時間でもワンオペに近い状態になる時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	ブレイルーム内は定期的に備品配置を見直し、子どもたちが使いやすく安全に配慮した環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	2	子どもたちと一緒に片付けや清掃活動を行っているほか、やり残した箇所は職員が細かく確認して実施している。	もう少し走り回れる環境が欲しい
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	着替えを行うときは別室に入り、その他の状況では必要に応じてパテーションを使用するなど、プライバシーに配慮している。	パテーションで個別スペースの環境は作ることが出来るが、個室が欲しいと思うことがある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	半期ごとに自己目標を設定し、自己評価と他者評価をもとに振り返りを行っている。	シフトによって全員が同じ時間にミーティング出来る機会が少ない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者アンケートの結果を職員全員で共有し、振り返りと改善に向けた話し合いを実施している。	保護者会や親子会がまだ実施出来ていない。 ※令和7年12月時点
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・昼礼や会議などで職員の発言の場を設けている。 ・個人からでも管理者に伝えることが出来る職場の雰囲気作りをしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	法人内では各委員会の年間計画に従い毎月研修を実施している。また、事業所内でも毎週木曜日に研修を行い、障害福祉についての基	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	個別支援ミーティングの記録シートを日頃から活用し、こども一人ひとりの細かな変化や気になる点など記録している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	モニタリングや担当者会議の記録も職員間で必ず共有し、利用者を第一に考えた支援に繋がるよう意識している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		職員全員がよりスムーズに把握しやすい方法を取り入れることが課題だと感じる。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2		定期受診後の結果などを聞き取った後、その都度漏れなく共有するための体制や決まり事を整える必要がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		「地域支援・地域連携」についてはこれまで積極的に取り組めていなかった反省から、次年度は地域のイベントにボランティア活動で参加することや、他事業所との合同活動などを計画・実行していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	活動の立案は担当者が行っているが、活動内容は職員全体で把握し取り組んでいる。	

へ 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	SNSで見つけた遊びや製作活動など、新しい活動内容を常に模索している。	子ども一人ひとりの特性理解をさらに深め、療育に繋がる新しい活動内容を取り入れていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	正社員とパートで出勤時間が異なるが、昼礼での打ち合わせに加えてアプリで情報共有を行い、「知らなかった」が起こらないようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	帰り送迎などで直接保護者様から得た情報については引継ぎノートやアプリに書き込むことで共有している。	退勤時間が異なるので全員での終礼は難しいが、ノートやアプリを活用するほか、さらに効率的な新しい方法を模索中である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的なモニタリング以外にも、ちょっとした気になることがあればその都度対面で話す機会を設け、支援の見直しを行っている。	お仕事の事情などで直接顔を合わせる機会が少ない保護者様に対しても、気になることがあれば出来るだけ面談の機会を設けていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	0	学習や自立活動に特化するのではなく、様々な体験活動や集団活動を取り入れて経験出来るよう、年間計画を立てている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1	年齢に応じて、活動内容やルール決めを「こども会議」として話し合う機会を設けている。	低学年と高学年の2グループ化しているため、自己選択や自己決定の場や手段を変えていく必要がある。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	原則として児童発達支援管理責任者が外部の会議に出席しているが、当事業所での話し合いでは保育士も参加するなど、2名体制で参画している。	子どもの状況に応じて、必要と判断すればこちらから相談支援員に相談し、積極的に担当者会議を設定していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2		相談支援員にも相談し、小学校との情報共有は必要だと感じる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	以前よりさらに「スクリレ」や公式LINEなどで細かく正確に情報共有が出来ようになった。送迎遅れも減ってきた。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5		学校での現在の様子は都度聞いているが、就学前の園との情報共有はほとんど出ていない。文書からでも共有していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4		高校卒業後に就職した利用者については保護者様を通じて先方にも情報を伝えてもらったが、今後は事業所職員が直接情報を提供する体制を検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	今年度は児童発達支援センターで行われた研修（全10回）の動画を毎週視聴し、職員間で意見交換を行うことが出来た。「毎週木曜日の11:00～」と時間を決めておくことで意識も高まった。	児童発達支援センターと顔合わせは出来ているが、直接的な助言や研修参加などは出ていないので、必要に応じて機会を設けたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		どのような活動やイベントがあるか情報を得る必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5		頻繁には難しいが、年に1～2度でも参加できるような体制作りを考えていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	連絡帳への記入（利用時）に加えて、帰り送迎時などに口頭で状況を伝えている。直接会えない保護者様にはLINEで様子を伝えるなど、こまめな情報共有を心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		個別で話をする機会を設けることはあるが、全体での研修の機会を設けるまで至っていない。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時の説明に加えて、事業所の特徴が一目でわかるチラシを作成し、支援内容がよくわかるように工夫している。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		本人の願いや保護者の意向だけではなく、出来る範囲で家族の思いなども計画に反映していきたい。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		保護者様によってはお仕事の都合が付きにくい方もおられるので、スケジュールに書き込んで早めの日程調整を行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	日頃から様々なツールで保護者様と情報を共有し、必要性があれば面談のお誘いをしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	4	保護者会（親子レクリエーション）を年度内に計画している。（令和8年2月頃予定）	令和8年2月半ばに初めて「親子レクリエーション」を実施した。参加保護者はまだ少なかったが、とても有意義な時間を過ごすことが出来た。今後はレクリエーション以外の活動も取り入れていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	どんな小さな案件でもすぐに職員全員で共有し、素早い対応や連携を重視して実践している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	定期的にインスタグラムで日頃の活動の様子やお出掛けの様子などを発信している。	毎月発行のお便りに活動予定表を載せているので、行事やイベントの参加確認を早めに行い、人数確保と準備を進めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	インスタグラムやチラシには顔が写らないよう工夫し、さらに保護者様にも同意確認を行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		「地域支援・地域連携」についてはこれまで積極的に取り組めていなかった反省から、まずは事業所周辺のクリーン活動から始めていく。今後は地域イベントでのボランティア活動も実践していきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	各マニュアルについては策定出来ている。避難訓練や関連する課外活動（社会見学）も年間を通して実践している。	避難訓練や動画視聴での訓練などは実践しているが、職員全員で全ての訓練に参加できる機会を設けるようにしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		BCP計画書の作成や研修など行っているが、机上訓練の方法など色々なやり方を学び、事業所内で取り組む必要があると感じる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	てんかんの持病がある児童については、その頻度や対応方法について保護者から入念に聞き取りを行い、細かな体調変化について職員間で常に共有している。また、服薬については与薬指示書の記入を必ずお願いしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		食物アレルギーの利用者は在籍していないが、今後の受け入れ準備として事業所内で研修を継続して行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	ご自宅へ送迎時に保護者様が不在の場合は、高校生以上のご家族様に引き継ぐ決まりを全家庭に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	不適切な対応や発言が出ないよう、昼礼や会議の場で何度も話し合いをして共有している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	身体拘束についての同意書もらうほか、職員研修の中でも基礎知識の学習や事例検討などを行い、虐待防止に努めている。	